

小学校における学級経営上の問題を解消するための取り組みについて

鈴木 弘充^a

^a 湘北短期大学保育学科

【抄録】

小学校通常学級における巡回相談から、学級経営上に課題を有すると思われる事例を取り上げ、問題解決のための取り組みについて検討した。その結果、一学級の問題に学校全体で取り組む姿勢と、あらゆる状況にあっても対処できるよう各教員が常日頃から心身の健康を増強することが、根本的な解決にとって重要であることが示唆された。

【キーワード】

小学校 学級経営 学級崩壊

I. 目的

近年、小学校において「学級崩壊」と呼ばれる現象が広がり、安定的な学習環境を確保することが困難になってきているといわれている（四辻、2011）。文部科学省は、学級崩壊を「子どもたちが教室内で勝手な行動をして教師の指導に従わず、授業が成立しないなど、集団教育という学校の機能が成立しない学級の状態が一定期間継続し、学級担任による通常的手法では問題解決ができない状態」と定義している（文部省、1999）。また、学級崩壊とまではいなくても、学級経営上の問題や複数の児童による逸脱行動により、授業が成立しにくい状態にある学級は増加傾向にあるといわれている（浦野、2001）。

筆者は以前、小学校通常学級における特別支援教育巡回相談の中で、特定の児童単独だけでなく、

複数の児童の問題行動や教師への反抗的態度、学級経営上の問題を抱えたクラスの観察・相談を行った。そして、このような問題の発生は高学年の学級に限らないこと、しかし高学年になるほど学級経営に対して児童同士の人間関係の影響が大きくなり、問題の深刻さ、困難さが増していたことを報告した（鈴木、2009）。学級崩壊の要因の一つとして、学級の中に「特別な教育的配慮や支援を必要とする子どもがいる」という指摘がある（文部省、1999）ことから、また通常学級における特別支援教育の充実という視点からも、対応について十分な取り組みが必要であると思われる。

本研究では、前回には具体的な内容を報告しなかった、特別支援教育の範疇を越えた学級経営上の問題について取り上げ、状況観察をもとに改善策等について検討する。

II. 方法

2008年度、2009年度、2010年度に筆者が行っ

<連絡先>

鈴木 弘充 hiro@shohoku.ac.jp

た小学校通常学級における巡回相談の中から、学級経営に課題を有すると思われる事例を取り上げ、その状況観察等の内容をもとに、改善策や課題について検討する。

Ⅲ. 結果

(1) 観察等の概要

2008年度に行った巡回相談では、対象校5校のうち4校4学級、2009年度には、4校のうち3校3学級、2010年度には3校のうち1校1学級で、学級経営上の問題をかかえた学級の観察・相談を行った。

その中から、観察時間が短く十分な情報が得られなかった1事例を除く、7事例についてそれぞれの概要をまとめる。なお、年度と学校については本研究の目的に無関係と考えられるため、記述に関しては順不同とする。しかし、事例7は、事例6の経過観察の意味合いが強いため、連続して記述する。なお内訳は、3学年1学級、4学年3学級、5学年2学級、6学年1学級である。

(2) 各事例の概要

事例1

3学年。複数の児童(特に男子3名、女子1名)に、授業中の不規則発言、校外への飛び出し、物を投げたり、たたいたりする行動が見られるなど、担任への反抗が問題となっている。

体育(水泳)と清掃の場면을観察した。体育ではプールに入らず寝そべったままの児童、清掃では真面目に取り組もうとしない児童の様子が見られたが、問題となっている児童以外の多くは落ち着いているように思われた。

観察の合間やその後に担任から話を聴いたが、ケース会議での検討はせず、担任の精神的な苦痛に関する訴えを筆者が受け止めるにとどまり、解

決策を検討するまでに至らなかった。

事例2

5学年。他の児童とのトラブルが多く、授業に落ち着いて取り組めない男子2名(A児、B児)について観察した。

学級での話し合いの中で、A児が他の児童からの納得のいかない指摘(じゃんけんに勝ったのに「負けた」という指摘)に対して激怒し、机を倒して椅子を投げ、その児童につかみかかったが、側にいた担任以外の教員に抑えられ廊下に連れ出された。A児に本気で教員を振り払う様子は感じられず、手を放しても廊下に突っ伏して、改めて攻撃的な行動をとろうという様子は見られなかった。さらにB児がA児の傍らに座り何らかのやりとりが見られると、A児の表情も和らいでいった。

事例3

6学年。中学受験を控えているせいか精神的に不安定な状態にあり、授業中に落ち着かない男児2名を観察した。

2名とも、話し合いや給食の時間に、貧乏揺すり、歌を歌う、立ち歩きなどの行動が見られた。特にA児には、難関校と思われる私立中学校の入試問題を周囲の児童に解かせようとしたり、筆者に出身大学を訊ねたり、学歴に対するこだわりが感じられた。その一方、「** (球技) やりたい」というつぶやきも聞かれたが、観察後のケース会議で、受験勉強のために** (球技) チームをやめたばかりということがわかった。教室後ろの掲示物からは、A児の自己像、学級像に関わる記述に「ちょいワル」「天才」などの言葉が見られた。

事例4

4学年。2人で一緒になって授業中に立ち歩く

男子（A児、B児）を中心に、授業に集中できない10名近い男子を観察した。

A児、B児が立ち歩いて他の児童にちょっかいを出したり、授業に関係のない物で遊ぶ様子が見られた。他の数人の男子も授業に集中せず、姿勢が安定していなかったり、机の下にもぐって授業に参加しないなど、全体的に混乱した状態が見られた。特に担任がA児を廊下に連れ出して注意をしている場面では、教室は児童だけになり、数名の児童がカードゲームを始めたり、B児が教師の机の引き出しを開けるなど、混乱した状態になっていた。

事例5

4学年。感情のコントロールに問題のあるA児、授業中に落ち着きがなく立ち歩いてしまうB児、担任に対して反抗的な態度をとるC児を中心に観察した（すべて男子）。

読書の時間や教室間の移動の時は静かに落ち着いている様子が見られたが、授業では、担任の指示で行動を切り替えたり、課題に取り組むことはできず、好き勝手な行動をとる男児が多く見られた。全体的に落ち着きがなく、担任の指示が入らないまま、騒がしい状態で授業が進められていた。

事例6

4学年。A児（女子）と他児（女子）のトラブルをきっかけに、男子を中心にA児への攻撃、担任の対応への不満から反抗につながり、担任の短期間での交代も要因となって、全体が不安定な状況にある学級である。観察は1学期2回、2学期・3学期1回ずつ、年間4回行われた。

（観察1回目）

交代したばかりの担任の指導に対し、特に2名の児童に強い拒否的な態度が見られた。1名は女

児で、指導の際に軽く頭に触れたことに対して激しい拒否反応を示し、もう1名の男児（B児）は、注意された内容に納得がいかず、自らの正当性と担任の誤りをまくし立てていた。

また、A児に対し男子が「ちょっかい」を出したり、清掃時にA児の机をなるべく触らないように運び、触れた指を壁で拭く動作をするなどの行動が見られ、A児の表情も観察中はほとんど曇ったままであった。

教室の清掃においては、ほとんどの児童が真面目に取り組まない中、A児が黙々と一所懸命に拭き掃除をしている姿が目立った。

（観察2回目）

学級活動（球技）では、C児（男子）が審判（担任）のジャッジに対して、激しく反抗する様子、味方の男子にプレイ中に命令する様子が見られた。

班活動では、B児は意に沿わない指示に怒りだし、次に別の指示を出されても、素直に従わなかった。しかし、しばらくしてからその指示に従ったり、挙手して発言する、清掃の際に筆者が机を運ぶと自分も運び出すなど、素直な面も見られた。

（観察3回目）

清掃はほとんど女子のみで行っていた。C児は、担任ではない教師から、清掃をさぼったことを数人の仲間の前で注意され、教師を侮辱・挑発するような言葉を返していた。

（観察4回目）

担任が交替していた。2つの教室に分かれた授業では、担任の授業の方が児童は集中して取り組んでいた。別の授業では、担任が最初に忘れ物の確認をし、忘れ物のある児童にどうするのかを報告させたり、挙手ではなく起立させるなど、独自のルールを取り入れて授業に集中させる工夫をし

て効果をあげていた。また、児童に注意する時には、廊下に連れだし、一対一で話をするなどの配慮がなされていた。教室の後ろに展示されていた粘土の作品を見ても、落ち着いて製作されたことがうかがわれた。清掃の時間は、児童達はさぼりながらも担当の場所には移動し、終了までそこにいた。

担任ではない教師が担当する授業では、とたんに男子が落ち着きをなくし、指示に従わないなど、反抗的な態度が目立った。特にB児は、席から離れ、教師にしつこく絡むような行動が見られた。

事例7

5学年。事例6で取り上げた4学年が進級に伴いクラス替えが行われたため、特にB児、C児が在籍している学級を観察した。年間3回観察したが、徐々に落ち着いてきたため、経過をまとめて示す。

B児は授業に集中できず落ち着かない様子は見られたが、他の児童が答えるときに答えてしまうなどの場面もあるものの、積極的に発言するなど意欲が見られるようになってきた。また、しつこいくらい担任に話しかけるなど、素直に甘えながら自分をアピールする様子が観察された。しかし、清掃の時に女子にちょっかいを出して逃げ回ったり、昼休みに隣の学級の男子とけんかするなど、授業以外での他の児童とのトラブルが見られた(観察1回目)。その後も、授業中には姿勢が悪かったり無関係な発言をするものの、反抗的な態度は見られないようになってきた(観察2・3回目)。

C児は、給食当番の仕事は白衣を着るものを取り組むことはなかったが、授業に集中し、担任の指示に従う様子が見られるようになった(観察1回目)。その3ヶ月後には、決められた時間を守る様子や嫌々ながら他の児童と一緒に踊りの練習に参加する様子が見られた(観察2回目)。年度末には、特に問題となるような行動は見られず、落

着いている印象を受けたが、担任からも言葉遣いが穏やかになってきた、との指摘があった(観察3回目)。

IV. 考察

全事例を通して、巡回相談によって状況が改善されるようなことはなかった。

しかし、具体的な解決策が見いだせなくても、事例1のように相談員が授業場面等に入ること、担任と体験を共有し、担任の思いを受け止めたり、教師とは違った視点から関わり方のヒントを提供できる可能性はあるものと思われる。

事例2のように、担任以外の教師が教室に入り児童間のトラブルが起きた場合に対応するなど、チームティーチングが有効であることが多い。特に児童間のトラブルの場合、攻撃している方の児童だけを制止することが、他方の児童の言葉を含む攻撃の続行を許してしまうことになり、収まりがつかなくなる場面を別の巡回相談において何度か観察した。当事者双方を引き離し、それぞれをクールダウンさせることが必要である。事例4のように担任だけで個別の問題に対処しようとする、学級全体まで手が回らない状況に陥り、ますます学級全体が混乱していくことが予想される。また、事例2では、もう一人の問題となっている児童の関わりで怒りをクールダウンする様子が見られたが、疎外感や劣等感など負の感情を共有しあえる関係にあることが効果をもたらしたと思われる。互いに問題行動を強め合うだけでなく、その関係が良い方向に作用する可能性もあることが示唆された。

事例3では、中学受験を間近に控えた6年生が精神的に不安定になり、落ち着きのない行動を示す様子が観察されたが、掲示物の記述からは思春期特有の自己像の揺れ動く様子が感じられた。青年

期の入り口にある小学校高学年においては、児童の発達段階を踏まえた視点と対応が重要となると思われる。

事例5では、問題の核となる児童を中心に、影響を受けた周囲の児童の落ち着かない様子が見られた。しかし学級全体への担任の指示、働きかけが児童達に受け入れられておらず、むしろ担任の一斉指導に課題があると思われた。担任の児童指導に関する研修だけでなく、複数教員による授業の支援が必要と思われた。

4学年から5学年にかけて観察・相談を行ってきた事例6、7では、深刻な混乱状態にあった学級が、担任の関わり方や指示・対応の工夫により全体的に落ち着いていった過程を見ることができる。担任が「ぶれる」ことなく学級全体のルールを確立、徹底することで秩序が回復し、個々の児童に対して、認められることは認めながらも毅然として対応する中で、行動上の問題を多少は残しながらも改善されていったと言える。

また、学校全体で情報を共有し、管理職を含め複数の教員が学級や個々の児童に関わり、問題解決に向けて取り組んだことも、改善に大きく寄与したと思われる。例えば、反抗的な、または「キレやすい」児童に対する対応法について、教員全体を対象に研修を行うなどの取り組みや、担任に対して学校全体がバックアップする姿勢を持ったことなどがあげられる。担任に対する学校全体のバックアップは、担任の精神的な負担を軽減し、職務上必要な心身の健康を保つことはもちろん、ゆとりを持って児童と関わる上でも大きな助けとなり、結果的に児童との関係改善にもつながったと思われる。

以上、事例をもとに考察する中で、担任以外の教員の協力や学校全体での取り組みの重要性が示唆されたが、同時に学級経営における混乱や沈静化には個々の担任の要因が大きいことも示され

た。学級での細やかなルール化とその徹底、個々の児童に配慮した対応法などは、ある程度技術として習得可能と思われるが、その適用においては、担任の毅然としたかつ余裕のある態度が必要であり、情緒的に安定していることが求められる。

M.Papworth (2003) は、教職関係者が個人レベルでできるストレス対処法を紹介しているが、感情のコントロールについて述べる中で、児童、生徒との対人関係においてストレスを受けないための受け止め方、応え方を具体的に示しており、結果的に児童との関係を改善する方法そのものになっている。教師の情緒の安定は、感情的にならずに毅然とした態度で児童に接することを可能にし、学級全体の児童の信頼を得ることにつながると考えられる。巡回相談の中で、学級経営の良好な担任を表現して「**先生はぶれない」という言葉を何度か耳にしたが、「ぶれない」態度を可能にしているのは、情緒の安定であり、そのためには心身の健康の維持、増進が不可欠と考えられる。

学級崩壊については22県が1度も実態調査をしておらず、27都府県が対応マニュアルを備えていないことが明らかになっている（毎日新聞、2010年11月22日）。しかし、問題の原因や状況は様々であり、どのようなマニュアルがあったとしても問題解決に即効性があるとは考えがたい。一学級の問題に学校全体で取り組む覚悟と姿勢、あらゆる状況にあっても対処できるよう各教員が常日頃から心身の健康を増強することが、根本的な解決に必要と考える。特に、教職員の精神疾患による休職者数の増加が問題となっているが、安定した学級経営という観点からも、教師にはストレス対処法を含む健康面での取り組みが日頃から求められる。

文献

- 1) 四辻伸吾 (2011) : 事例に学ぶ チーム援助を活かした対応 授業が成立しにくい学級における取り組み. 児童心理, 臨時増刊, No.927, 117-121, 金子書房.
- 2) 文部省 (1999) : 学級経営をめぐる問題の現状とその対応 (中間まとめ)
- 3) 浦野裕司 (2001) : 学級の荒れへの支援の在り方に関する事例研究—TTによる指導体制とコンサルテーションによる教師と子どものこじれた関係の改善—. 教育心理学研究, 49, 112-122.
- 4) 鈴木弘充 (2009) : 小学校通常学級における巡回相談の課題. 湘北紀要, 30, 15-20.
- 5) M.Papworth (2003) : Stress Busting. 石田雅人・漆原宏次・実光由里子・林 照子訳 (2006) : 教師・教育関係者のためのストレス撃退法. 北大路書房.

小学校における学級経営上の問題を解消するための取り組みについて

A study on Means of Problem-Solving in Classroom Management in Elementary Schools

SUZUKI Hiromitsu

[abstract]

The present study aimed to clarify means of problem-solving in classroom management in elementary schools using case studies. As a result, the following are suggested to contribute to problem-solving by providing systematic support from the entire school and by improving the teacher's health.

[key words]

Elementary school, classroom management, class disruption

